

話題提供「—お互い様のある社会は、暮らしを豊かにする—」

東北学院大学地域共生推進機構 特任教授 本間 照雄氏



1. 災害公営住宅の 20 年後の姿（課題）を過去の被災地から学ぶ

§ I 1993(平成 5)年 7 月 12 日北海道南西沖地震（北海道奥尻島）



人工地盤は、旧市街地を 6m 嵩上げる漁業集落整備事業で整備された住宅地につながる

災害公営住宅と荒れている緑地

視察しての気づき

- ◇強力な行政主導による復旧・復興
- ◇復旧と復興の同時進行による早期の復興宣言
- ◇義援金活用による住宅と生業の再建（個人支援）
- ◇島民意識（結束力）を基底とした互助・共助



- ◆島民意識に依存し過ぎた自立生活の脆弱性
- ◆生活感の乏しい災害公営住宅

§ II 1995(平成 7)年 1 月 17 日兵庫県南部地震（市営南芦屋浜団地）



災害公営住宅(右)とその後に行った一般住宅(左)。一本の道路で生活圏が隔てられている

手厚い緊急呼び出しシステム

視察しての気づき

- ◇近隣関係が希薄
- ◇自治会は管理組合的機能のみ
- ◇手厚い LSA 配置による見守り支援（財源的限界をはらむ）
- ◇コミュニティ意識が希薄な為に公的見守り重視に偏った



- ◆結果、今でも続く孤独死（平成 29 年 64 人の孤独死）

2. コミュニティは心の安全基地！

○ 地域（コミュニティ）づくりとは

- ◇ほんの少しの「わずらわしさ」を共有すること
- ◇自分の住む地域に誇りと愛着（価値）を持つこと



こうした住民一人ひとりの意識や参加が「安心・安全」のまちを創る

○ 改めて、なぜコミュニティ（community）づくりなのか！

- ①快適なハードは自己完結能力が高い
- ②反面、孤立化傾向を助長する
- ③この矛盾を打開するのがコミュニティ
- ④コミュニティ形成には、「日常」と「非日常」の相互作用が必要
(小さなコミュニティ) 日常 ⇔ 非日常 (大きなコミュニティ)

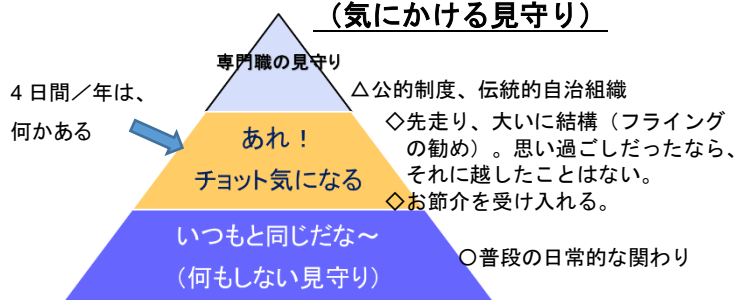


他者との交差
↓
他者への関心を生む



相互見守りへ発展
(を期待している)

◎ご近所力による見守りは、99%何もなくていい (気にかける見守り)



地域共生社会（お互い様の社会）

